

生き物のすみか	・とてまたくさんの種類の動物がすみか
生活で使う燃料	・木を切って薪や炭の材料にする
生活で使う木材	・木材で家を建て、道具を作る
山のごちそう	・山菜や木の実、鳥や小動物をとる
農業で使う肥料	・落ち葉や林の下の草を堆肥にする
大地と水を守る	・木々が土に根を張り、土砂崩れを防ぐ ・雨が濁った水が川に流れ込むのを防ぐ ・雨水がゆっくりしみ込み、地下水になる
心をいやす	・豊かで美しい里山の自然と風景は私たちの心をいやす

里山には、様々な生き物たちがすみかや豊かな自然環境があります。そして私たちの暮らしに様々な恵みをもたらしてくれています。

里山の役割

人々が暮らししている「里山に近い山のことを「里山」といいます。これに対し、「人里から遠くにある奥深い高い山のこと」を「奥山」や「深山」といいます。



里山と奥山

里山

里山の役割とキゴ山の自然



絆の森はキゴ山にあった旧牧草地(約28,000㎡ テニスコート約108面分)に、ドングリから育てたコナラやクヌギの苗木約1,300本とヤマボウシ、ナナカマド、クリなどを平成22年から23年にかけて金沢市内の小学生が植えたものです。

キゴ山ふれあい研修センター
(銀河の里キゴ山)



雑木林の木を使う

昔人は「いろり」や「かまど」で使った雑木林の材木を得意にしていました。しかし、今の家にはいろりやかまどはありません。そのため毎日薪や炭が使われることは少なくなりました。薪や炭が使われなくなると、雑木林で木を切ることがなくなり、人の手が入らなくなると、林は荒れていき、雑木林の環境を好む生き物はどんどん減ってしまいます。

人暮らしと雑木林

里山の雑木林

キゴ山の茅場



スキやチガヤ、アシなどの草のことを「茅」といい、茅がたくさん生えていて利用するために毎年その茅を刈り取っている場所のことを「茅場」といいます。

茅場の自然

キゴ山の茅場はカヤネズミという日本一小さいネズミがすみとても大切な場所です。しかし大切にすぎるとスキを刈るのをやめると、年月がたつにつれ茅場が消え、普通の林になってしまいます。

茅場も雑木林や田んぼと同じで、人が手を入れて利用し続けることによって守ることができる自然なのです。

キゴ山ブックレットNo5 里山の役割とキゴ山の自然
発行：令和4年(2022年)3月
金沢市教育委員会 キゴ山ふれあい研修センター
金沢市平等本町力13番地1
TEL 076-229-1141 FAX 076-229-2511

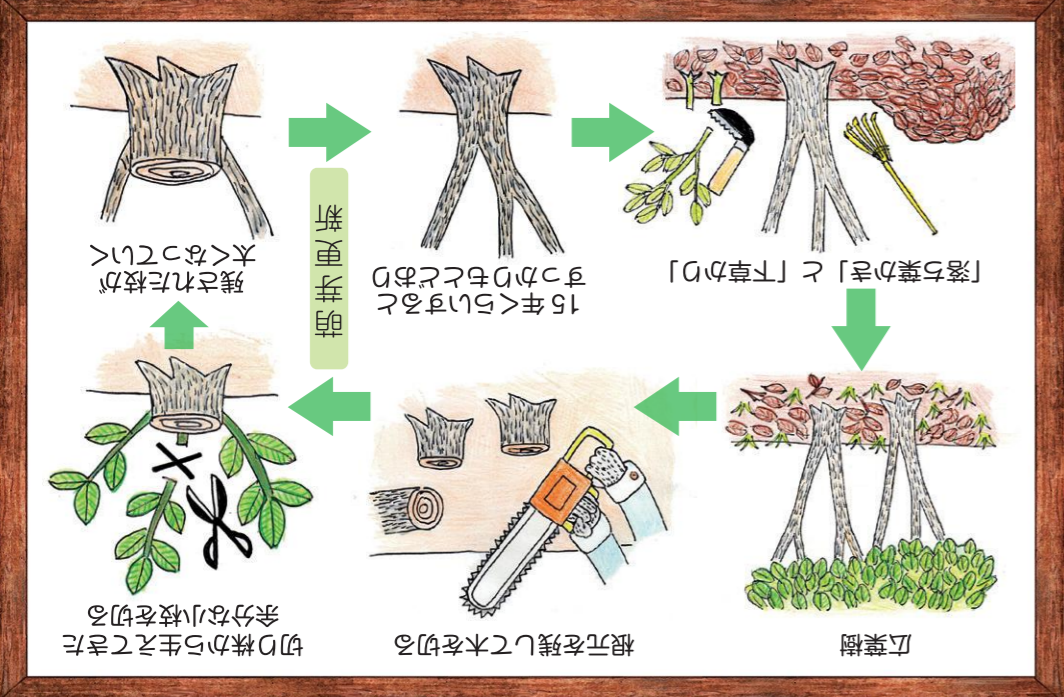
里山の自然を守るには？

雑木林の余分な木を切り、落ち葉をかきや下草かりをすることで、明るい日光が地面に届くようになり、明るくなつた林では、今まで眠っていた植物の種子からいろいろな植物が育ちます。こうしてできあがったのが雑木林です。

人が作った雑木林

里山であるキゴ山にはとてもたくさんの種類の動植物がすんでいます。キゴ山を散歩していると、これらの動植物に出会えるかもしれません。

里山の雑木林は人が大切に林を利用することで守られている自然なのです。このような自然は雑木林だけではありません。マタカやドジョウ、カエルがたぐさんでいる「田んぼ」も雑木林と同じく人が手を入れることによりできあがった自然なのです。どうすればこのような自然を守ることができるのか、ぜひみなさんで考えてみてください。



キゴ山と動植物